

本日のこのブロック別湧水保全情報交換会議にあたりまして、本町のふきだし湧水口を含めました「ふきだし公園」につきましての現状又、保全活動、施策等を含めまして、ご紹介致したいと思ひます。

ご承知のこととは存じますが先ず本町を紹介したいと思ひます。本町は、札幌市より車で1時間30分の距離に位置し、東は札幌市、北は赤井川村、西は倶知安町に南は喜茂別町に位置している人口約3,500人の町であります。大部分が丘陵起伏して平坦地は少ない状況にあり、西側を流れる後志最大の河川であります尻別川の流域、又その支流でありますワッカタサップ川、ペーペナイ川、カシブニ川と、その流域は平坦にして概ね肥沃な大地であり馬鈴薯、小麦、ビート等の栽培に適している土地となっております。又、市街地を中央に縦断するように町民の身近な川としてオロッコ川が流れている状況にあります。

本町は、明治30年旧讚岐丸亀藩主京極高德子爵が開拓したのが本町の始まりとなっており、当初「東倶知安村」でありましたが、昭和13年の京極農場解放に伴い、昭和15年に村名が京極高德子爵の姓よりいただき、「京極村」となったものであり、その後昭和37年現行の「京極町」となっております。

この私達が住んでいます北海道の各市町村名を見ましても我が「京極町」という名は、なかなか他にはない由緒ある町名と私達も自負を致しております。

尚、この開墾、そして命名に関しての京極家を取り持つ縁として本町と四国香川県丸亀市とは現在も友好都市として、お互い隔年により各種お祭り等を通して人的交流を図ってきております。

さて、本題に入ります前に、「水」と「人」との関わりについて一言述べさせていただきます。

「水」は、人間の生活の中において密接な関わりをもっており、欠くことのできない資源であることは改めて申し上げるまでもありませんが、戦後、急速に発展してきたこれまでの社会ではこの点が顧みられることなく開発が進められてきました。自然・水・そして生物・人間というこの関わりを大事に守りつつ、地域の中でどのように活かせるかが現在のまちづくりを進めていく上での基礎となるテーマであろうと考えております。こうした状況の中におきまして各地の湧水が後世に保全され、又、

地域住民がそれぞれの緑と自然に親しみながら明るく健康に生活できますことを私としても切に願うものであります。

本町が平成14年策定した第4次京極町総合計画では「美しい水と農(みのり)の幸せなまち」を、この計画のメインテーマとしております。この中での「美」は自然も人も命の輝きを発露し、その中で調和と安定が保たれている状態を表しており、「水」は命の源であることを表しております。又、この中では自分たちと共に歩む「秀峰羊蹄山」と「ふきだし湧水」そして、清流日本一の尻別川の恵みに感謝しながら優れたこの自然環境を守り抜き、自然も人も生き生きと美しく輝くという力強い決意も表しており、「名水の郷」がまちづくりの核となり、全町民が水に関わったまちづくりを意識する目標を持っていただき、全町民の心が一つになっていただきたいという思いをこめて策定しております。

次に、本日の課題であります、「ふきだし湧水」があります「ふきだし公園」は本町の市街地から歩いて10分ほどの場所に位置しております。

本町の歴史によりますと、ふきだし公園は昭和初期に岩内町の個人より本町に寄付されると同時に京極町にありますお寺の和尚が「観音様の霊水」として不動明王、33番観音像を設置すると同時に霊場とし、それとともにやがて当時の村民、又、その後の町民の憩いの場として、親しまれてきた公園であります。

このふきだし公園は昭和60年、当時の環境庁(現環境省)の名水百選認定を契機に本格的な公園として整備が始まりましたが、当時の整備の柱としては、あくまでも当時からの原生林を活かして整備するという基本柱を持ち、整備を致しております。

とうとうと湧水が湧き出る遊水池は、先に申し上げましたとおり、開拓当初より聖なる場所と崇められ、本町の人々の手により大切に守られてきており、その歴史を大事にするということも理念に整備は平成5年度まで続けられ、最終的には、コンビネーション遊具、三角ステージ等を持つ総合的な公園になりました。

公園内の湧水口から湧き出る「ふきだし湧水」は蝦夷富士とも呼ばれる羊蹄山に降った雨や雪が数十年の歳月をかけて地下に浸透し、京極の

この地に湧き出した湧水であります。水温は冬も夏も6.5度前後という冷たさで、水量は1日約8万トンであり、これは約30万人分の生活用水に匹敵しております。又、平成14年度には、ふきだし公園を訪れる観光客が年々増加するにつれて高齢者や障がい者の方達も訪れるようになり、その方々に対し、より優しい環境整備が必要となり、下池より湧水口までの園路を整備舗装の上、バリアフリー化して、車いすの障がい者が単独でも湧水口まで行くことが可能となる工事を施工しました。

この環境整備にあたりましては、高齢者や障害者を含む家族の絆やふれあいを第一に考え、全ての観光客がふきだし公園の自然を満喫できるよう整備を致しております。

又、この「ふきだし湧水」は、京極町の水瓶としても使用されております。この湧水は、温度も一定であり、どんな集中豪雨も、更に融雪期も濁ることのない又、湯水ない水であります。昭和38年当時、本町の市街地は、もともと湿地帯であり、場所によっては、井戸水も良好でないところがあり、そういった意味でも早くより市街地を水道化する必要性があったため、工事を施工の上、本町の簡易水道として使用されたものと解釈しております。現在は上水道はもちろん下水道としても使用され、本町の水の源として大切に管理保全がなされている状況にあります。

この「ふきだし公園」又、「ふきだし湧水」は、整備工事の中でも申し上げましたが、昭和60年の「名水百選」以来、平成2年に当時の建設省（現国土交通省）が選定する「生活を支える自然の水30選で手作り郷土賞」、平成8年当時の国土庁（現国土交通省）が選定する「水の郷百選」、平成13年北海道遺産構想推進協議会が選定する「北海道遺産」に25件の内の1つとして、又、最近は平成17年「手づくり郷土賞 - 大賞部門」を受賞しています。

尚、この「賞」につきましては、昭和61年に創出され、その後において「手づくり郷土賞」を受賞している地域を対象に、受賞してから10年以上にわたり良質な社会資本として個性的で魅力的な地域の実現に寄与しているものを対象として、平成17年度よりこの「賞」が設けられており、全国各地より「地域整備部門」14件、「地域活動部門」19件、「大賞部門」78件の応募の中から「地域整備部門」8件、「地域活動部門」12件、「大賞部門」37件の合計57件が選定され、本町はこの「ふきだし公園」も選定がなされました。尚、本町の他には、道内的に「地域整備部門」として旭川市の「旭山動物園」、「地域活動部門」としてニセコ町の「ニ

セコ花フェスタ綺羅街道」、「大賞部門」としては、本町と虻田町の「湖畔通り」が選定されております。

本町としましても今後ともこれらの「各賞」に恥じないよう一層の環境維持、そして保全に万全を尽くしていきたいと考えております。

このふきだし湧水を含む公園全体の管理につきましては、現在、京極町観光協会が管理をしております。

例年、4月20日より11月20日までは常雇用で3人を雇用し、管理にあたっており、業務としては、湧水口の管理はもちろん、公園内の芝管理、トイレの管理等多種多様にわたり、全般的な管理をしております。又、冬期間につきましては、時間雇用となりますが、冬期間も絶えることのない観光客に対応するため、湧水口に行く通路の除雪に始まり、湧水口等の除雪、トイレの清掃維持、各施設の除雪等を行っております。

ここ数年の傾向と致しましては、冬期間、台湾又、韓国などアジア各国の観光客が北海道そして京極の冬を満喫するため、多い日では1日2000人程度の観光客がこの本町の「ふきだし公園」を訪れるようになってきており、北海道、日本、そしてアジアの「ふきだし公園」として定着してきた感じを持っております。

以上が本町としての、この会議にあたっての情報提供と致します。ご静聴ありがとうございました。